

# 常本琢招 ワンマンショー

1984-2024

昨年、毎回満員。静かな興奮と確かな余韻を刻んだ上映会「ツネモト×4人のヒロイン」が、スケールも密度も増して再登場。8ミリからデジタルまで、40年以上にわたり衝動と執念をスクリーンへ叩きつけてきた常本琢招の軌跡を横断的に解説する。3月単独ロードショーの『みつかるまで』に代わり、昨年のPFFで若い世代から熱狂的に再発見された8ミリ『にっぽにーず・がーる』を上映。さらに——2013年公開以降、自ら封印してきた『蒼白者 A Pale Woman』が、再編集・決定版としてペールを脱ぐ。ぜひ劇場で目撃を!

## ぴあフィルムフェスティバル1985入選

### にっぽにーず・がーる

1984年/60分/8ミリ→HD

監督:常本琢招 | 脚本:常本琢招・気仙正明 | 撮影:徐瀬倍六、杏里あるか | 製作:Golden Partners Company ●出演:中森裕美、桜井順子、原田摂子、小窪郁、石沢志折

ふたりの女性が拉致されたボーイフレンドを探す追跡劇。『ジョンベン・ライダー』『ジャクラー ニューヨーク25時』を両親とする映画。



「映画＝運動」を掲げ、女の子が60分ひたすら走る。45本の映画、3つの小説・エッセイ、1つの演劇の引用で編まれたコラージュ。と聞けばシネフィル映画のようなだが、その正体はとびきりガーリーな“女の子ムービー”。昨年PFFで掲げた意句「走る。走る。」

走る! 女性が“生きる”先駆的自主映画! そのままの一本。今回はPFF版とは異なる素材で上映。



### アナボウ

2010年/20分

## ゆうばりファンタ2011

オフシアターコンペティション出品

監督:常本琢招 | 脚本:香川まさひと(『羊の木』脚本「監察医 朝顔」前科者)原作 ●出演:吉谷彩子「ビスリーチ」CM「グランメゾン・パリ」池永亜美、金井隆、中原翔子

『アナボウ部』に青春のすべてを賭ける一子。青春は、熱狂か、狂気か。

謎の部活「アナボウ部」の正体とは?



出来上がった作品を見てとても驚いた。自分が監督したらこうは撮らないだろうものだった。お笑いの感覚の違いか、性に対する考え方の差か、運動(アクション)への興味の異なりか、あるいは監督が楽しい青春時代を過ごしたせいなのか。今『穴棒』(作画・月島冬二)という同じ設定の作品(ビッグコミックオリジナル増刊、あるいはネットのピッコミで)を作っている。以前と違い利他がテーマになっている。今、三話目の原作を書いているのだが、一、二話目の脚本に疑問を感じてしまい、困っているところだ。たぶんそれはメジャーとマイナーについての問題かもしれない。監督と私の資質もそこにある気がする。(香川まさひと/脚本家・漫画原作者(本作脚本)) \*『穴棒』は完結、現在単行本発売中(小学館)

### 蜘蛛の国の女王

2009年撮影・2023年再編集

/53分/モノクロ

監督・脚本:常本琢招 | 撮影・照明:志賀葉一 ●出演:久遠さやか(『深呼吸の必要』)、西山朱子(『INAZUMA稲妻』)、粕谷美枝、佐藤五郎、佐藤幹雄、山崎和如、クマガイコウキ

気鋭の女性建築家・映子は、憧れだった先輩女性建築家・美子と再会した。今は職もなく生きている美子を、自分の事務所に入れてあげよう。

そこから、美子の仕掛けた恐るべき罠が展開していく…



「見ていたのは主人公の心の中だった」という「カリガリ博士」の系譜に連なる映画である。いや「見ていた」ではない、心の中を「見ている」ことは、スキャンダルで憧れの上司が失踪する導入から示される。ところでこのスキャンダルは現実なのだろうか? 再び現れてヒロインを追い詰める上司は? 心の中

を見ている以上、ここに信頼できる語り手はいるはずもなく、すべてのシーンが消失点であるような異様な劇が展開してゆく。翌年公開された『ブラック・スワン』よりもはるかに過激だ。(高橋洋/脚本家・映画監督)



### 何もない部屋

2023年/27分

監督・脚本:常本琢招 | 原作:望月明美 | 制作:佐倉剛 | 撮影:前川和久

●出演:川添野愛(『Chime』)、木原勝利(『東京遭難』)、春風亭伝枝、奈良坂篤

銀座のホステス(川添野愛)に惚れた男(木原勝利)が、別居中の妻と二鬼を追おうと思ったが、結局振り回された挙げ句…



日本の昔話、民話には「異類婚譚」が多い。『鶴女房』『蛤女房』怪談なら『雪女』。『何もない部屋』もその系譜といえる。ピンク映画やエッチVシネで多くの傑作を生んだ常本琢招は、ジャンルムービー(大衆娯楽)の根幹にある昔話や民話の骨法に沿った映画の語り部だ。本作は滑稽話の「馬鹿されもの」でもある。ヒロインの儂さとしたた

かさ。彼女に翻弄される男の哀れさと可笑しさ。「異類婚譚」は総じて悲恋に終わるが、常本民話はある程度楽しさに満ちている。ヒロイン初め、登場人物達は皆、昔話の妖怪みたいな不可思議な魅力を纏っている。もし銀座のナイトクラブで鶴女房と浦島太郎が出会ったら、こんなお話が生まれるかもしれない。(にいやなおゆき/アニメーション作家)



### 蒼白者 A Pale Woman (新編集版)

2013年/87分 [第8回CO2助成作品]

原案・監督:常本琢招 | 脚本:木田紀生 | 撮影:福本淳 | 照明:木村匡博 | 音楽:竹内一弘 | 録音:光地拓郎 | 美術:宇山隆之 | 助監督:黒川幸則 | 制作進行:加藤綾佳 ●出演:キム・コッピ、忍成修吾、木村啓介、長宗我部陽子、宮田亜紀、木原勝利、大山果、渡辺護、中川安奈

韓国人の若い娘・キムが大阪に戻ってきた。幼いころ一緒に育った最愛の男・シュウを暗黒世界から救い出すために。彼を救うため、危険な計画をためらうことなく進めていくキム。しかし行く手には、大きな試練が待ち受けていた…

2011年、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭でキム・コッピと出会った常本監督は、「愛を渴望し、破壊しながら求め続ける怪物のような女」を彼女に託すこと決めた。メロドラマとノワールが激しくせめぎ合う一作が、2025年、再編集版として甦る。



4/5	13:00 - 14:00 にっぽにーず・がーる	14:15 - 15:08 蜘蛛の国の女王	15:20 - 16:10 アナボウ+何もない部屋	休憩	16:50 - 18:20 蒼白者 A Pale Woman	18:20 - 18:50 トーク
4/12	13:00 - 13:50 アナボウ+何もない部屋	14:05 - 14:58 蜘蛛の国の女王	15:15 - 16:15 にっぽにーず・がーる	休憩	17:00 - 18:30 蒼白者 A Pale Woman	18:30 - 19:00 トーク



トークショーの詳細は公式SNS・HPにて→

映画「みつかるまで」  
(監督:常本琢招) 公式



常本琢招関連上映HP



2026. 4/5日・12日 二日間限定  
ツネモトタクアキ 5作品上映

通常一回券:1,000円 / 蒼白者のみ一回券:1,500円

通し券:3,500円

ササ 阿佐谷  
03-5327-7640  
杉並区阿佐谷北2丁目  
12-21 ラビュタビルB1F

JR中央線・総武線 阿佐ヶ谷駅 北口より徒歩2分  
北口出て左に進み三つ目の角を右折。TOAフィットネスセンター裏手

